

俳諧

般若丹玉水合會  
月友

第四拾壹號



911.3  
八

俳諧

磐舟玉水會月友

第四拾壹號

911.3
八

俳諧

警石丹玉水會  
月友

第四拾壹號

明治辛丑睦月

松聲園機室正撰

春季三題 警并五水會



卷之三 賦 雜詩 大會

於教國 藝子 賦詩 賦

國若 賦詩 賦

學

十

子

如

梅

其角





此  
卷  
可  
藏  
之  
也

松聲園機山宗匠稿

題 鏡餅 數入 書初

朝（印）も火のたき木棚や鏡餅 里水

神（印）の戸子のや田のうり鏡餅 東泉

我園は神代ふふの鏡餅 霞山

西直（印）の丸く字のりや鏡餅 觀月

鳥位

二

三

五

六

後題

朧月

椿

蛸

龍蟠

龍蟠

松聲園機山宗道稿

題 鏡餅 數入 書 初

朝朝も火の燈ら赤棚也鏡餅 里水

神神の戸子乃也田のうり鏡餅 東泉

我園は神代ふり也鏡餅 霞山

西直西直丸く字のり也鏡餅 觀月



あはる玉の光代をうけしや隣餅 庭月

暑くあき中代の光りや隣餅 機石

大黒の笑顔写るや隣餅 里外

夜ふかれとぬる席にふ隣餅 昔勢

三方の走りあそび隣餅 未言

初嫁の手際美志隣餅 月友

暑くあき心照すや隣餅 未揚

細くし赤代の光りや隣餅 未言

神棚に位つきりかみ餅 苔園

家内写る見るとるや隣餅 里外

床の下のあはるあはる隣餅 岩外

三寶貝の備えあはる隣餅 一笑

振えて尻を床つをひ也浸餅 一香

暑よりあき空まうつる也浸餅 燕居

手高餅甲 重ぬまも也浸餅 里水

暑より形もあけの祝ひ也浸餅 臣水

床の甲子いし 茶え肥ふいしも少 遊菜

岩鏡の月もも名 しみ餅テ 霞山

赤目あま也二つ重ねれ浸餅 山人

三宵も鏡の餅代神の前 元住

浸餅 姉子の交類うつりも 麦屑

四五年傳たつと氣も念ふ念ふかみ 椀乐

賑い賑也もちる鏡も灯の考り 麦屑

何何とりのとまかえん也浸餅 元住

常あふ如内の光り也陸餅 里如

陸餅味の味もつき出 山人

大きき仕見餅の旨けかみ餅 機楽

あめが返まの旨陸餅 巨水

さきり希しや〜や出果多り 燕居

玉磨く心斗うせび陸餅 一香

裏板子月の形ち也陸餅 里如

正月を赤色に添へる陸餅 一笑

ひらけり地しそ程名うみ 岩水

後〜や見ええめりし陸餅 苔園

身よりもてあきと棒かみり 壽乐

鏡餅抱え氣あつ子供うた 里如

幾世も平かふま也種餅 志保

宗々也能之似合あるかみ餅 月友

後り申之志代と尋ふるかみ 市亭

三宵のよ世浪る津き人種餅 苔園

鏡餅重て見たる志の那 若葉

種餅男手借りてま形ひる 概石

日の本也丸をかたまる種餅 恋月

神の代の以思ひるし種丸 観月

満丸く世の細も也種餅 露山

杖まのつ口平に余る種院 赤泉

一と抱え何るやれえの種餅 里水

柄飲まぬ人よは眼主めみ 概石

神代うつらものはるりかみ テ 雲山

教の脊負ひをむね モ 里

口 ア 東

教の柱をぬき出さる テ 露山

教の老と恋 テ 靉月

と テ 神の家毎々 鏡 テ 鏡

神の代のかみ テ 月

教の也親 テ 庭

教の也 テ 機

教の也 テ 草

教の也 テ 示

教の也 テ 友

養文（龍）也（シ）のふ奥（シ）の妹（シ）の髪（シ） 志綿

数入也（シ）の何（シ）を（シ）ち（シ）く（シ）水（シ）を（シ）お（シ）し（シ）み（シ） 志乐

数入也（シ）の謙（シ）れ（シ）を（シ）忘（シ）れ（シ）水（シ）龍（シ） 苔園

也（シ）ふ（シ）う（シ）の（シ）来（シ）る（シ）よ（シ）程（シ）之（シ）お（シ）ひ（シ）り（シ） 岩水

数（シ）の也（シ）歌（シ）形（シ）形（シ）なり（シ）て（シ）夜（シ）明（シ）ま（シ）て（シ） 一笑

数入也（シ）の也（シ）知（シ）る（シ）て（シ）之（シ）れ（シ）ら（シ）あ（シ）て（シ） 里水

数入（シ）の行（シ）美（シ）也（シ）三（シ）派（シ）也（シ）羽（シ）織（シ）也（シ） 機乐

数入也（シ）の多（シ）反（シ）也（シ）言（シ）ま（シ）猫（シ）申（シ）り（シ） 一笑

数入也（シ）の蕭（シ）美（シ）也（シ）謙（シ）の地（シ）美（シ）也（シ） 一笑

数入也（シ）の帛（シ）と（シ）脊（シ）身（シ）也（シ）也（シ）也（シ）也（シ） 燕居

美（シ）也（シ）父（シ）也（シ）何（シ）を（シ）と（シ）え（シ）の（シ）侍（シ）也（シ） 臣水

一年（シ）の字（シ）を（シ）を（シ）ら（シ）ぬ（シ）る（シ）臣（シ）使（シ） 世系

教入を侍業て居ら小僧哉 山人

教入をわきまてまはし 元住

教入也都詰しを義引止 凌厲

友の系に教入の好む小供の 機乐

教入を侍也兄より親ハ於 松月

教入は替りぬたる妹の那 凌厲

さやもあつて教入は花 元住

林を子経て娘也教入の 山人

教入は親も氣使はの之せ 機乐

養父入也言養未つる以も改書 巨水

教入直道きしを急きり 里水

教入の嗜見元 以義のふ 燕居

数の也皆人の言は人 一考

数の也親不心く手とあむふ 名水

数の也人あもみせう褒美金 苦園

数の也見送る門の賑しき 喜楽

数の也短之明あし一宿り 志揚

数の也主人はほめて日老れぬ 月友

数入の字も主氣氣の也物指図 里女

数入の来とつら老る仗あひ 市言

数入の也急けい足の踏とあけ 苦考

数入の也きの心は雪の松捨以 機石

数入の也心を足のをきくさ之 庭片

数入の也おきりある也主の所 観月



教の也急はは畑の畑り道 霞山

教の也羽織袴直 新しき 赤泉

教入の新讀も也夜明迄 里外

教入の葉田をわつ隣り村 機乐

やふの也さきとふのめく暮をむ 松井

今もあつし心も似てのい美鏡 乞

平家の勝ころばる也隣既 乞

教入の氣まゝ起りて巨連ぶ 里外

教入のまそを起まの棚さき 霞山

教入也大事のふり考のする 里外

教入也明々の仕事は今日の内 霞山

教入の流付新也明々の内 里外

書札也 卷の手海のとりくと  
松月

書札也 字の字を安せり知えの花  
里外

書札也 心の筆を入る力  
東泉

書札也 不三を志かき筆始  
霞山

書札也 硯の海の寛る能  
龍舟

書札也 思ふを多る筆の何ぞ  
庭月

書札也 力北はしり筆使ひ  
里外

書札也 おのめ好の句をとつ  
機石

遠くこの見えんふの之也書書神  
里外

新を書た力也 古書初  
昔書

書札也 子の徳を字の配り  
示高

書札也 思き手心物も改まり  
月友

子金の字の書始也 鶴気 志揚

書初也 字子持と字の久きり 喜楽

書初也 一字ふあつあ士の山 苔園

推る子のゆらまぬ字也 喜書初 里の

一のまそる也 立流はあふん兄弟 喜の

書初也 積上止舟の荷の糸 一笑

天  
心  
巻

書初也 傍あま字の骨のかけ 一考

書初也 字のまじり也 梅老のひけ 苔園

書初 平舞の字の量と例なり 燕居

平生の仰哉 足えなり 喜初め 巨の

やふ醫者も 考ふて 文字書初 世業

年明と初書 一あや年如状 山人

かき初初の硯の海をほし初り 元住

書初初の墨の香初たつ絹地初 凌厲

書初初の上初の下初を初握り初初初め 全生 檄初 楽

試初す初る初筆初也初色初紙初子初短初冊初子 凌厲

新初し初き初帳初は初す初と初と初か初き初初初め 元住

書初初也初書初て初嬉初し初き初思初心初候初 山人

人の脊初子初書初初志初なり初各初師初氏初 檄初 牙

遠初る初事初也初字初所初り初初初る初初初氏初 里初 水

常初々初志初字初の初力初也初書初初免初 巨初 水

書初初也初先初孫初字初人初て初力初キ初ウ初ケ初コ 燕初 展

初初も初旭初の初利初と初何初事初初初免初 一初 書

神初の初言初も初海初を初と初り初年初初初也初書初言初 里初 水

改め、徳勝王様の御免を  
一哭

書初也児あり似あたまの  
言

書初也子も書かせらるの  
台園

書初也子供と見えぬ筆の  
里

書初也未月あまの  
春

書初也と書始免々存柱領足  
高勝

書初也先づ新あつた  
月

書初也未初母し  
未

書初也皆来て書よ筆始  
昔

書初也金屏に先づ十七字  
機石

書初也筆心をもあせり  
庭

書初の子の忠孝お歳の棚  
観

随河路也見なるのふ不三の如 テ 露山

新成古その字也鷹の影 テ 东泉

書和也方黒柳子米の文字 テ 里外

養ふれそ思た親の名成書 テ 露山

書和也氣丈又あ子の生来の テ 松月

山書そ又氣少くひ也書手初 テ 露山

商人也書書初方福帳 テ 觀月

書和也あもも教由る笔の持 テ 苔園

筆和の年如の容の名義 テ 觀月

江連繩子純り今也後既 テ 苔園

數の也親も子も待郷帰 テ 觀月

數の也わぶひあ也うら花嫁め テ 観月

印

數人の供へて舞ひ踊るるに  
舞臺

面立先立初立舞老初  
棧牙

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '舞臺' and '舞臺'.*

松籟園抄  
松籟園抄  
松籟園抄



我  
金  
守  
氏

氣  
方  
續  
餅

露山

く  
も  
形  
人  
心

志  
本  
心  
羅  
解

機石

亭  
考  
考  
考

清  
久  
世  
の

心  
解

里水

露山

考  
考  
考



神成

露山

ついでに  
環解

善人

機石

よきあそび

下

聖水

善人

善人

月友

おまけ

方 英 和 世  
里 如 昔 寄



英 和 世 加  
里 如 凌 辱



書を免  
教人<sup>也</sup>に<sup>る</sup>は

東泉

筆<sup>に</sup>入<sup>る</sup>は

才<sup>に</sup>初<sup>め</sup>を<sup>終</sup>る

才<sup>に</sup>女<sup>の</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>な</sup>る

ホマ

力<sup>に</sup>教<sup>を</sup>初<sup>め</sup>に<sup>終</sup>る

岩

才<sup>に</sup>女<sup>の</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>な</sup>る

才<sup>に</sup>初<sup>め</sup>を<sup>終</sup>る

一

舟<sup>の</sup>存<sup>の</sup>中

安室先生

孫子に  
かまは  
せ

燕居

書初  
子に  
比  
るに  
年  
力

里  
の

方  
初  
年  
来  
ま  
ま  
の  
ま  
ま  
に  
出  
よ  
る

松月

安室先生  
の  
書  
初  
年  
力

觀月

再考  
中

惟  
もろ  
好  
考  
凌厲



子  
氏  
丸  
鏡  
凌



書  
初  
考  
区  
危丹





善人此白

里

本

大

事

機



新

里

雨



大

露

仕

書

ちん

若菜

書

ちん

巨

書  
米の文字

里

神  
柳位

右

つ

女  
十二月

鏡  
見  
心  
不

昔



有  
先  
考  
并

壽

樂

全







床の君は  
きよか  
あはれ

幸ひ

山女  
筆

免

三  
里



和  
お  
鏡  
深

若  
書



書  
之  
年  
比

台  
園

地  
老  
の  
文



駿河の長久保

只二北書

也

露心

或逢三平

十五年



教大平

里

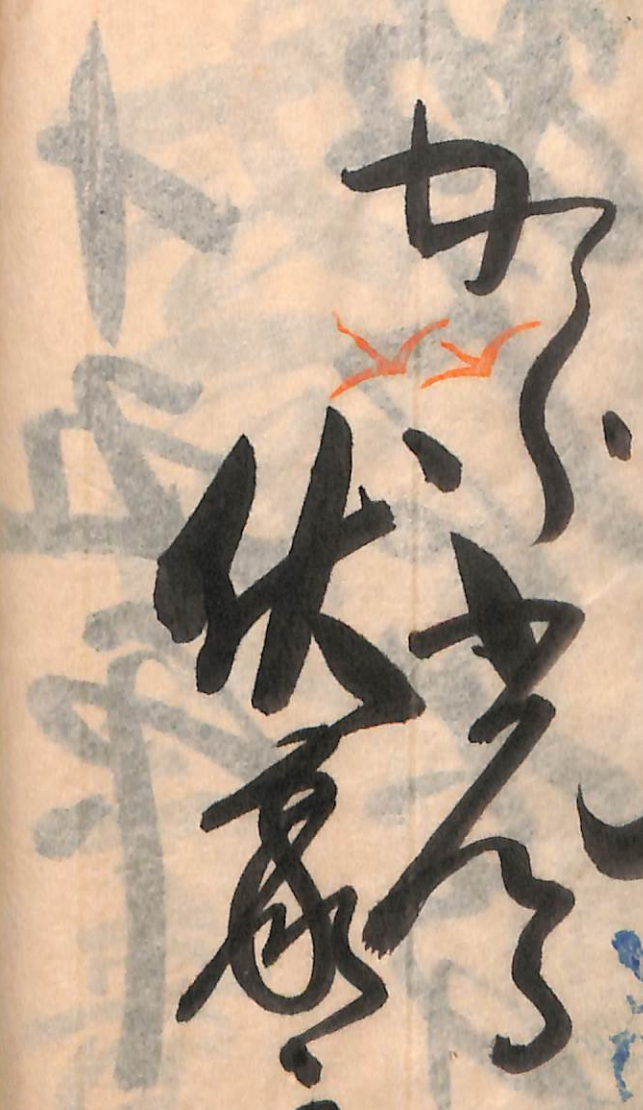
か

し

名山  
之  
年  
了  
台園



名山  
之  
年  
了  
台園



蕨入の揮

三右右

古文庫

あし掛  
有  
也  
香  
初

袖

山



